

3. 11震災で、平和省があれば何が出来たか?

合宿「3. 11震災で、平和省があれば何が出来たか?」

その1

国を運営するために具体的な役割として——平和省はどんな仕事をする機関か?

大震災など苦難の中においても、政府を信じる事が出来るような平和省の役割とは?

1. 緊急時に完全に人間の（命をまもる）立場に立って、情報・資料を集め、提言をし、各機関の仲立ちをするなどしながら、行政機関・各省庁がシステムテックにうまく力が発揮できるようにするコーディネーター
2. 世界の科学者から原子力の情報を集めてどうしたらよいのかを話し合いする場を作り、その情報がオープンに見えるようにするファシリテーター
3. 有事における首相を補佐補完する。あるいは代わって機能する FEMA のような政府機関

■判断、指示

- ・有事が起きる前から情報と知見の蓄積をしておき、いざ緊急時になった時に情報を提供したり、判断基準を提示したりして、行動指針・政策立案・指示などが迅速に出せる
例：アメリカの FEMA（有事に活動する権限を持っている）
- ・環境省、経済産業省、文部科学省などと違う発想をする部門。
- ・何世代あともだの人の「命をまもる」ということに専門性を置いた省として判断・指示を行う。

■コーディネーター 仲立ち 調整

- ・いろいろな省庁にバラバラにある情報や経験蓄積があるものや政府の持っているさまざまな力をバランスよく引き出して、コーディネートする。そのための連絡調整、話し合いの場をつくる省。

参考：これに近い役割として内閣府があるが、内閣府は広い分野を統括してやらなければならないなんでも屋で、やりきれないし権限がない。内閣府の職員の入れ替わりが早いので継続性がなく、専門性や蓄積ができていない。

例：20ミリシーベルト問題の時・・錯綜する政府判断を国民から求められたものについて世界から集めた知見に基づいて中立的に仲立ちをし、意見や判断を調整することを行う

例：経済産業省と環境省の持っている情報と役割の調整

■ミッション

命をまもる省として、独立した機能を果たすためにはどんな能力が必要か?

- ・命を守るために必要な情報をきちんと広報する。各部門にバラバラにある情報をまとめ知らせる

3. 11震災で、平和省があれば何が出来たか?

- ・現在だけでなく、未来に渡っても、「命をまもる」という長期的な立場に立っている
- ・専門性

■選定・招集

- ・海外からも国内からも、必要な人と情報を集める権限をもっている。

※招集・任命する権限を持っている

有事になる前からコンスタントなりサーチをし、情報を蓄積しておくシンクタンクを備え、有事にはその情報の中から選択し判断し任命招集する。

- ・世界から常に新しい知見が日本政府内に入るようにし、そこからの提言をする。

例：諮問機関として「世界賢人会議」を置き、平時から知見と情報を研究するシンクタンクの機能を持つ←☆効果☆外からの情報がいつでも入ってくる。

■情報

- ・各省庁や機関がもっている情報を調査整理し掌握しておき、公開する必要があると判断された時は、公表することを提言することが出来る。

これは命令ではないが、提言することによって、そういう情報や機能が省庁にあるということが、社会の中に目に見えるように促すことで、健全な運営に役立てることができる。←☆効果☆：政府が国民からの信頼を得ることが出来る。☆各省庁が持つ能力を最大限に発揮できるようになる。

↓ ↓ ↓

※権限「命をまもる」という視点で政府が正しかるべき情報の広報をするために、平和省は全ての省に対して、提言できる。

これは、各省庁間で対立関係に陥るのではなくて、

他の省庁と平和省は、人的な交流が日常的にあるようなシステムを構築しておき、情報の共有化を図り、いざという時にシステムテックに政府が働けるようにするため。

また他の省庁の官僚は、平和の文化を実践する体験することによって、官僚の質の向上に役立つ。

例：省庁の要職に就くためには、平和省の経験＝平和の文化を実践する体験が必修条件になるようにする。

■情報・経験・ノウハウなどの蓄積

平和をつくるためや人の命を守ることに特化した仕事出来るよう平和省では、専門性を持った職員が継続して働く。それによって専門性と情報・経験・ノウハウや知見の蓄積が出来る。

■プロデュース

- ・政府や政府機関の働きの中で、よくやっているところを平和省が国民に広報する。

3. 11震災で、平和省があれば何が出来たか?

平和省が政府の働きを褒めることで、社会の中で政府の働きを認識しやすくし、政府の信頼性を高めることが出来る。国民からの理解が得られる。

・「平和省が広報をすることは信頼できる」というコンセンサスが国民にある。←☆効果☆政府と国民とが信頼で結ばれるようになる。

・他の省と闘うような平和省ではなく、平和省自らが平和の文化を体現している。

例：政府やそれぞれの省がよくやっていることをアナウンスしつつ、寄り添っている関係で独立はしていて独自に調査や研究している。各省のいいところをちゃんと褒める省。平和の文化を政府の中でやっている。

・政府を信頼するにたる政府にする。国民の不安を取り除くようにするためには、もっとこうしたらいいんじゃないかということ、やり方も含めて提言・提案するなどアドバイス。国内外の平和のための知見に基づいてそれを行う。

※権限：情報の共有化

例：「○●省はこのようによくやっているんですよ、国民の皆さん」というアナウンス。国民から見ても平和省は信頼できるし、平和省の言う事だったら信じてもいいというコンセンサスが国民の中にある。

例：「避難地域がだんだん広がって行くと人は政府を信用できなくなっていくが、あらかじめ大きめに避難地域を定めておくと人は安心するよ。」ということ、きちんと言ってあげる平和省。「もっとこういう言い方をしたら政府が信頼してもらえるよ。」ということ、平和省が言ってあげる。市民団体に言われるのではなく、電通などの広告会社に頼るのではなく、平和省がそれをする。政府内の機関でうまくプロデュースしたりコーディネートする省（平和省）があることは、政府にプラス。←☆効果☆客観的な立場に立って、政府の働きを見えるようにする。電通のような民間機関との癒着にならない。

■サンダーバードのような機能

・・・これは、その2「自衛隊と平和省との関係」に譲る。

註

※は、権限

☆効果☆は、効果